

財務の概要

平成 29 年度は、昨年度に引き続き施設将来計画を着実に実行した。河田町キャンパスでは、新校舎棟について本院 1,2 号館に続き、看護学部第 2 校舎・巴一寮・ハイテクリサーチセンターの解体が終了し、平成 30 年度当初より校舎棟 1,2 の着工を開始する。

附属医療施設では耐震性に問題のあった本院の病棟について、中央病棟・東病棟の耐震補強工事に続き、西 A・B 病棟および南病棟の耐震補強工事を実施し、平成 30 年 9 月までには耐震補強工事が完了する予定である。また東医療センターの足立区移転に関しては平成 30 年 3 月に基本設計が完了したが、引き続き早急に実施設計に着手する。このような多額の施設設備投資を行ったため、資金面では自己資金のみで全ての資金を賅うことはできず、施設設備投資にかかる借入金は平成 28 年度に比べ約 10 億円増加した。

収支面では、経営統括理事の主導の下、その直轄組織である経営統括部を通じて、徹底的な経費削減を始めとして、人件費の適正化、不採算施設の集約・統合等の重要な経営課題に対しスピード感をもって確実に取り組んできた。

収入に関しては、本院の耐震補強工事実施に伴う一時的な稼働病床数の減少により医療収入は予算を下回ったが、本院の手術件数の大幅増を始め東医療センターの入院稼働率の向上、八千代医療センター増床による入院患者数増の影響で前年度実績に比べ 33 億 5 百万円の増収である。その他、受託事業収入等の伸びにより教育活動収入は予算に対し 4 億 4 千 3 百万円超過となった。

一方、支出面では人員数の減少等により人件費が抑えられ予算を 5 億 4 百万円下回った。その結果、基本金組入前収支差額は予算を 5 億 7 千万円上回る 6 億 7 千万円の収入超過となり、3 期ぶりに赤字を脱却することができた。